

非稼働病棟に係る状況確認等の結果

(1) 経緯

(国の通知)

- 国は、令和5年3月31日付け医政地発0331第1号で、「病床機能報告上の病床数と令和7年の必要病床数について、差異が生じている構想区域においては、その要因の分析及び評価を行い、非稼働病棟を有する医療機関に対して、地域医療構想調整会議へ出席し、病棟を稼働していない理由や今後の見通しについて説明を求めること。」とした。

(県の対応)

- これを受けて、県は、「**非稼働病棟を有する医療機関に対して状況確認を行い、再稼働が見込まれない場合は、病床数の見直しを依頼する。依頼に応じない場合は、地域医療構想調整会議に出席し、非稼働病棟について説明するよう求める**などの対応を検討する。」こととした。（令和5年度第1回地域医療構想調整会議において合意済）

(2) 結果

- **3年以上非稼働である病棟（※）を有する医療機関（非稼働病床230床）に対して、状況確認や病床数の見直し依頼を行った結果、125床減床予定、105床現状維持（うち15床は再稼働済）を確認した。**

※令和2年度、令和3年度、令和4年度の病床機能報告（対象期間H31.4.1～R4.3.31）の内容を基に非稼働病棟の有無を確認。

- **現状維持105床のうち、再稼働済15床を除いた90床については、次の（3）のとおりであった。**

非稼働病床に係る状況確認等の結果

(3) 現状維持する病床(90床) ※現状維持105床のうち再稼働済15床を除く

地域	医療機関名	病床数	現状維持とする事情等
津軽	しらとりレディースクリニック (業務都合により欠席)	19床	<ul style="list-style-type: none"> ○ 院長の年齢的体力低下と体調不良により、平成27年頃から非稼働状態。 ○ 院長の子は産婦人科専門医試験に合格し、現在、県外の医療機関で産婦人科医療に従事しており、将来的にはクリニックを承継する見込みである。 ○ ただし、産婦人科医療に従事してから4年程度であり、本人は更に経験を積みたいとしている。院長自身も、さらに数年程度の経験が必要であると考えている。 ○ このような事情から、数年後を目途に、院長と子とでよく話し合って、先のことを決めたいとしている。
津軽	ふくしまクリニック (業務都合により欠席)	19床	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人員不足のため、現在は非稼働となっている。 ○ 院長の子2名が承継候補だが、いずれも現在研修医であるため、現時点では具体的な将来像を描くことが困難な状況にある。 ○ 一方、仮に病床の転換や廃止をする場合、機材の処分等に相当の経費が発生することから容易ではない。 ○ このような事情から、クリニックをこの先どのようにするのか、院長とその子とで検討したいとしている。
津軽	おおはしクリニック (業務都合により欠席)	2床 (3床→2床)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当該クリニックは泌尿器科を専門としており、泌尿器科関係での入院を想定し3床を用意していた。しかし、医療スタッフの不足に加え、新型コロナウイルスが流行したことから、もしも入院患者が新型コロナウイルスに罹患した場合には対応が困難となるため、令和2年1月頃から3床全てを非稼働とした。 ○ 診療時間について、以前から日曜日の午前も診療しており、一定数の患者（主に泌尿器科受診が目的）が訪れていた。そこに、令和4年4月開院の弘前総合医療センターが初診時に選定療養費7,000円を求めるようになった時期から、日曜日の受診患者数が増加している。 ○ 泌尿器科以外の患者も増加傾向にある上、遠方からの患者もいること。さらには、コロナの5類への移行とインフルエンザ流行など医療事情が変化していることから、日曜日に受診し容態が悪い患者については、一晚留め置き月曜日に別の医療機関に搬送することも想定される。 ○ このような事情から、医療スタッフの体制を考慮に入れた上で、1床を減じて2床を残すとしている。

非稼働病棟に係る状況確認等の結果

地域	医療機関名	病床数	現状維持とする事情等
八戸	八戸生協診療所 (業務都合により 欠席)	2床	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外来及び在宅医療中心のため、平成29年頃から非稼働状態。 ○ 当該診療所では、現在約120人の在宅患者を診ており、介護している家族の高齢化が進んでいる。このため、「介護者が入院した際の在宅患者の受入れ」や「介護者の休息のための在宅患者の入院（レスパイト入院）」といったことが必要になるものと見込んでいる。 ○ さらには、災害発生時や新興感染症等により急に在宅患者の入院が必要となる可能性もある。 ○ このような状況に柔軟に対応できる体制を整えるため、現状の2床を維持したいとしている。
青森	青森クリニック (業務都合により 欠席)	9床 (17床 → 9床)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人員不足のため、平成24年頃から非稼働状態。 ○ 介護関係施設との連携や介護医療院への転換を検討しているが、時期も含めて具体的内容については未定である。 ○ また、現行の人員を考慮すると9床で実施していくことが適当と考え、令和5年12月31日に17床から9床に減少予定としている。
西北五	つがる総合病院	16床	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4階病棟（非稼働の16床）は救急病棟やICU（集中治療室）としての稼働を予定して、平成26年4月1日に開院した。 ○ しかし、開院時に医師、看護師等の医療スタッフの確保ができず、4階病棟を非稼働状態で開院。その後、医療スタッフの確保に取り組んでいるが、未だ当該病棟開棟の必要数に至らず、やむを得ず非稼働状態となっている。 ○ 令和4年度から、4階病棟のうち10床程度をHCU（高度治療室）として運用するための協議を開始。人員確保対策（看護師の募集人数増）に取り組み、少しずつではあるが看護師数は増えている。 ○ 令和5年9月末に4階病棟の運用方法等について話し合う会議体を設置し協議を続けているところである。 ○ 人員確保や運用方法等について協議が整い次第、看護師の配置見直し等の準備期間を経てから、稼働させたいとしている。

非稼働病棟に係る状況確認等の結果

地域	医療機関名	病床数	現状維持とする事情等
西北五	鱒ヶ沢病院	4床	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年4月の一般病床から地域包括ケア病床への機能再編・転換時に、施設の構造の都合により4床が非稼働状態。 ○ ただし、現在の施設が、築40年以上経過していることから、大規模修繕又は建替えのタイミングで4床の再稼働を見込んでいる。 ○ 少子高齢化及び人口減少はあるものの、一方で健康寿命が延伸することで、高齢者人口については急激に減少することなく横ばいの状態が続くものと想定。このため、許可病床60床（うち非稼働4床）については、回復期病床の充実を図り、病院機能の維持と地域住民の医療需要に可能な限り応えることとし、今後も現在の病床数を堅持したいとしている。
上十三	六戸町国民健康保険診療所 （業務都合により欠席）	19床	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夜勤の待機医師や看護師不足のため、平成28年10月頃から非稼働状態。 ○ 六戸町では、医療提供体制の確保は大きな課題となっている。住民からも、入院の受入れ再開を希望する声があることから、病床数の減は行わず現状維持としたい。 ○ 現在は、入院病棟を休診としているが、再開に向けて医療スタッフの確保に努めている。

（4）今後の対応

- 現状維持する病床（90床）については、引き続き、県が再稼働の状況について確認していくこととする。